

国立大学法人山口大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

山口大学は、さらなる教育・研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学へと進化していくこととしている。第2期中期目標期間においては、学生教育を重視する大学として「育成する人材像」を明確にし、教育プログラムを不断に改善・充実して、学士課程教育や大学院教育を充実すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、全学部の新入生への知的財産科目の必修化、発達障害学生へのサポート体制の強化、学生参加型FD（ファカルティ・デベロップメント）の実施等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、獣医学教育の改善・充実を図ることを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成25年度においては、北海道大学、帯広畜産大学、鹿児島大学との獣医学教育に関する連携を推進するため、「4大学連携獣医学教育改革協議会」を設置し、欧米水準の獣医学教育の実施に向けて、欧米認証に必要な教育体制等に関する調査や、e-learning システム等の学習環境の整備を行っている。

（機能強化に向けた取組状況）

学長選考に当たって、大学構成員による「意向投票」を「意向調査」へ位置付けを変更するとともに、学長選考会議の役割の明確化、学部長等の学長指名制度の決定等、ガバナンス改革を推進するとともに、「国際総合科学部」の設置構想、人文社会系学部の一體的な改革の検討、教育学部における教員養成機能への特化の決定等、教育研究組織改革を実施している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

〔①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化〕

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 研究マネジメント人材であるURA（リサーチ・アドミニストレーター）のミッションを定義し、それに基づいた「プロジェクト評価」と「活動評価」から構成されるURAの評価制度を構築するとともに、事務職員からURAのキャリアパスを示し、将来的にURAとして活躍できる事務職員を配置するなど、研究マネジメント人材育成に積極的に取り組んでいる。
- 「心身の健康の維持及び増進等のための休暇」など特別休暇の適用範囲を拡大したほか、育児・介護休業法の義務規定を上回る「仕事と家庭の両立支援制度」を構築す

るなど、ワークライフバランスの推進に積極的に取り組んだ結果、「やまぐち子育て応援優良企業」として表彰を受け、また、「やまぐち男女共同参画推進事業者」として認証されている。

- 職員海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修として 13 名の事務職員を海外の大学へ派遣し、グローバルな視点を持つ事務職員を養成するとともに、研修参加者による帰国報告会を実施することにより、海外経験への意識・意欲向上の醸成を図っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 15 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（2）財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 動物医療センターにおいて、手術日の増や診療従事者の増員、県内外への広報活動により、平成 24 年度に比べ 4,900 万円増の 2 億 5,435 万円の収入を確保している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

- ①施設設備の整備・活用等、②安全管理・環境配慮、③法令遵守

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 総合図書館に、自由にディスカッションやプレゼンテーションの練習ができる学習空間である「アカデミック・フォレスト」や、海外留学を目指す日本人学生と留学生の交流を目的とした「文化交流スペース」を設置し、学習環境の充実を図るほか、学生が企画から運営まで行う飲食施設「りぶカフェ」を設置し、学生への経営教育の実践等キャリア支援の場という新たな機能を付加している。

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 5-アミノレブリン酸による蛍光膀胱鏡を用いた膀胱癌の光力学的診断研究等において、臨床研究に関する倫理指針違反があったことから、職員への教育研修の徹底や、研究に対する審査体制の強化等、組織として確実な再発防止に取り組むことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 14 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、臨床研究に関する倫理指針違反があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 知的財産科目を全国の大学に先駆けて、全学部の新入生に対して必修化し、講義映像を e-learning 用に編集するとともに、講義内容を電子教科書に編纂し、学習マネジメントシステム (Moodle) に掲載することで、時間外学習を推進している。
- 発達障害学生の状況の把握や対応の助言等を行う「コミュニケーションサポートルーム」を設置し、専門スタッフによるサポートを開始しており、障害に対する教職員・学生の理解向上や支援の充実に取り組んでいる。
- 新たな研究推進核の創出 (発掘・育成) に向けて、平成 26 年度から「新呼び水プロジェクト」制度を導入することを決定し、研究拠点の形成を目指した研究プロジェクトに対して集中的な財政支援 (3 年間の支援 (単年度 1,500 万円以内、総額 4,000 万円以内)) を行うこととしている。
- マレーシア日本国際工科院の技術経営分野の幹事校として、同校内に山口大学クアラルンプール国際連携オフィスを設置し、教員を長期派遣するなど、今後のダブルディグリープログラムの実施や、短期学生交流プログラムの充実に向けて、体制を整備している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 世界に誇れる先進医療の提供に貢献することを目的として実施しているトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）助成事業について、平成 24 年度採択課題の成果報告会を開催し、採択者及び若手医師の研究意欲向上を図っている。

(診療面)

- 「肝硬変症に対する自己骨髄細胞投与療法」が国内で初めて先進医療 B に承認され、韓国とのグローバル臨床試験を開始している。また、「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」が新たに先進医療に承認され、現在 6 件の先進医療を実施している。

(運営面)

- 病院経営に係る目標値を定め、入院診療単価 6 万 8,751 円（目標 6 万 7,000 円）、外来診療単価 1 万 4,033 円（目標 1 万 3,000 円）、病院収入に対する人件費率 38.4 %（目標 42.5 %以内）、病院収入に対する債務償還費率 7.6 %（目標 10 %以内）と目標を達成し、請求額も平成 24 年度に対して約 5 億 7,000 万円の増、収入額も約 6 億円の増額となっている。